

猛暑・台風・水害・おまけに地震。今年は特別に感じた夏も終わり、しのぎやすい季節になりました。皆様お元気ですか？お待たせしました！3号をお届けします。



多発する土石流

あいち防災リーダー会 会長 太田貴代子

厳しかった猛暑から、快い風がもう秋一色のこの頃です。

日頃は地域での防災啓発活動に関し、頑張っている会員の皆様には心より感謝申し上げます。

また、各地域での防災訓練への積極的な参加に対しましても厚くお礼を申し上げます。

9月に入って浅間山の噴火や地震などこのところ、大地震の前触れかと心配される中、各地で台風や豪雨の被害も発生してしまいました。

9月29日の台風21号はまたまた、全国各地に大きな被害をもたらし、土石流は一瞬にして尊い命と家屋をも飲み込んでしまいました。私たちは、亡くなられた方々のご冥福を祈るだけでなく、地域での災害に対して、益々防災意識の啓発や減災活動を続けて、悲しい犠牲者・被害者を減らす努力をしていきたいものです。リーダー会の皆様のご尽力をお願いします。

あいち防災リーダーとは

会長代行 (研修部担当)

知多ブロック代表 保坂松男

時折あいち防災リーダー (以下リーダー) とボランティア・コーディネーター (以下V/C) を対比した話を、良く耳に致します。皆さんはどのようにお考えでしょうか。

活動の理念には共通点はありますがリーダーとV/Cとは育成の原点が全く違います。

リーダーは防災カレッジで学んだ防災関係の知識を基礎に日頃の自己研鑽により、地域に対しての防災意識の啓発に、日々努力をしております。

またV/Cは、学んだ事のロールプレイの積上げにより発災時に即、役立つための研鑽に励んでおられると思います。何れに致しましても防災に関係する立場からして発災前、発災後の活動を区分して語る事は出来ないと考えます。

V/Cは支援本部の立上に始まり、ボランティアの受入れ等の管理が主なものでありハード面が要求され結果は一目瞭然と判ります。

反面、リーダーは地域に対し日頃からの啓発活動の積上げにより、発災後の被害が少しでも軽減されることに願い込めて活動をしております。

発災時に一人の死者も出さないよう日頃から地域に対しての防災意識の啓発活動が、もし結果としてなされたとしたら、こんな素晴らしい事はありません。

それに少しでも近づけるためにも発災前の啓発に今以上にリーダーとして何をやるべきかを、お互いに自問していきたいと思ひます。

機会がありましたら皆様のお考えを聞く機会を設けたいと思ひます。

そして、お互いに研鑽に励み防災意識の啓発に努めて行きたいと思ひます。



役員会は今……



第3回 役員会開催 9月12日(日) 於 岡崎市福祉会館

1、臨時総会開催について

- *開催予定日 11月20日(土) 13:30~ *会場予定 小牧市中部公民館
- *スキルアップ研修を併せて行うか・・・研修部にて検討中
- *会場設営は、尾張ブロックの協力を頂く。

2、防災カレッジ・地域講座DIGの手伝いについて

- 9月18日(土) 海部会場 9月25日(東三河会場)
- 9月20日(祝) 名古屋会場 9月26日(西三河会場)
- 9月23日(祝) 知多会場 *各会場とも9時30分集合

3、会則・規則改正について・・・総務委員会より中間報告あり

4、新潟・福井梅雨前線豪雨災害救援金募金の報告

* 募金総額・・・240,800円

各ブロックより 800円	201,	福井共同募金へ 円	100,000
H16カレッジ受講者 00円	39,0	新潟共同募金へ 円	100,000
		予備費として 0円	40,80



5、各部会報告

- *研修部 愛知県豊橋市合同防災訓練に参加報告
あいち防災リーダー会参加者 18名
- *広報部 APLA 通信3号の発行担当は、西三河ブロック
- *会計より

現在会員数の報告・H14 145名 H15 172名 9月12日現在 317名

6、その他

- 尾張
*過日 名古屋ブロックの村島氏が死去されました。村島氏が担っておられた役職を次の方にお願ひしました。
事務局長 知多ブロック 廣江 好矩氏
尾張ブロック事務局(副ブロック長) 原田 先夫氏

7、臨時役員会予定

10月9日(土) 午後6時~ 於 東海市しあわせ村 福祉団体室

・・・活動報告 海部ブロック・・・

初めての参加 !!

海部ブロック: 遠山

防災の日に先立ち、8月22日(日)海部郡・美和町総合防災訓練が美和中学校において実施されました。防災リーダーとして準備会より参加し、町役場防災担当・社会福祉協議会防災担当とボランティア支援本部立ち上げについて協議を重ね、また、町のボランティアコーディネーターとも連携をとり事前打ち合わせを行い当日に備えた。

当日、会場に於いては、住民を「駆けつけたボランティア」として、訓練種目の内5種目に参加願って



「受付」⇒「活動紹介」⇒「現場活動」⇒「活動報告」⇒「防災アンケート記入」⇒「解散」の手順で実施する事が出来ました。初めての参加で不慣れな面もあったが、「防災リーダー」宛に地域行政トップ名で参加要請・感謝の書面を戴いたことは「防災リーダー」が地域に認知されてきたと実感できました。来年度は小・中学生のボランティア参加をテーマとした支援本部立ち上げも考えています。

③単純な加減乗除で分かる地震の怖さ

名古屋大学大学院環境学研究科

福和伸夫



21世紀前半には確実に発生すると言われている東海・東南海・南海地震では、震度6以上の揺れは、神奈川から宮崎に及ぶ。国は、これらの地震に対する防災対策を推進するため、東海地震に対しては地震防災対策強化地域を、東南海地震・南海地震に対しては地震防災対策推進地域を指定した。両地域には、国民の三分の一に当たる4000万人以上が居住し、約1000万軒以上の建物がある。予想される被害は最悪、死者3万人弱、全壊家屋100万軒、経済被害100兆円とされている。これに対して、我が国の、2004年度歳出予算は82.1兆円、税収は41.7兆円、一般歳出は47.6兆円。年間税収の2倍程度の被害を覚悟する必要がある。被害の主原因は明らかである。建築物の耐震性不足である。耐震的に問題の残る既存不適格建物は、全国に1400万軒存在すると言われている。

被災者4000万人を救うのは、25万人の自衛隊（内、陸上自衛隊は15万人）と常備消防機関の消防職員約15万人、消防団員93万人である。これでは全く人数不足である。国民自らが自らを救い、互いに助け合うしかなく、自助、共助の精神が大事になる。これが地域力の源泉になる。

被害軽減のためには、耐震化が必須である。現状、耐震改修には1軒当たり200万円が必要であると言われている。この金額は決して高くはない。阪神淡路大震災では、応急仮設住宅を建設し撤去するのに1戸当たり350万円（新築費は概ね250万円）の費用が生じた。また、2004年4月からは、被災者生活再建支援法が改正され、全壊した世帯には最高300万円の補助を行うことになった。耐震化されていない建物は、所有者の命・生活・財産を奪うだけでなく、公的資金も大量に投入される。強い揺れに見舞われることが確実な地域では、耐震改修が必須である。

耐震化の課題について簡単な試算をしてみる。被災地の1000万軒の建物のうち3割が耐震性に問題があるとすると、全体としての耐震改修費は6兆円となる。我が国のGDPは約500兆円、長期債務残高は719兆円である。これらと比べれば、6兆円は決して高額ではない。しばらく前に金融危機を理由に公的資金を破綻した金融機関に投入した金額（12兆円）と比べれば半額である。我が国の勤労者世帯平均年収は約750万円、貯蓄高は約1,300万円、負債高は約600万円であり、お金が無いわけでもない。2000年度の建設市場87.7兆円の内、民間住宅の新築は20.8兆円、維持補修は6.1兆円である。年間の維持補修金額に相当するお金で耐震化は可能である。全国に存在する耐震性に問題の残る住宅は1400万軒と言われる。それを全部改修しても25兆円程度である。将来が見通せる国であれば、耐震化に重点投資するのが当然の帰結である。

問題は、人と時間である。我が国の建設労務作業者は約300万人、人口百人当たり2.3人である。都府県で比較すると、東京は1.7人、愛知は2.2人、三重は2.3人であり、全国ほぼ均等に労働者が居る。二級建築士は66万人で、人口千人当たり52人、東京は62人、愛知は4.7人、三重は4.9人である。一級建築士は全国に31万人で、人口千人当たり2.4人、東京は4.9人、愛知は2.4人、三重は1.6人となり、大都市に集中しはじめる。さらに、建築学会員は34000人で、人口1万人当たり2.7人、東京は8.8人、愛知は2.2人、三重は1.3人である。より専門性の高い耐震構造に造詣の深い建築構造士は2551人で、人口十万人当たり2.0人、東京は8.8人、愛知は2.1人、三重は0.5人となる。地域の専門家が圧倒的に不足していることである。耐震のことが本当に分る人間が少なければ、高度な耐震診断や改修設計は不可能である。では、時間の方はどうだろうか。2002年度の住宅着工数は約115万軒である。ということは、1400万軒を建て直すには10年以上の歳月が必要であることになる。すなわち、時間も足りない。

人と時間の限界を考えると、残された余裕時間は少ない。耐震化を推進し被害を抜本的に軽減しない限り、子供達の世代に今の生活を受け継ぐことはできない。経済力も技術力も有りながら、確実にやってくるのが分かっている巨大地震に無策であれば、世界から見捨てられる。今一度何をすべきか考えてみよう。

・・・全体活動報告・・・

愛知県・豊橋市合同防災訓練に参加



8月29日(日)神野埠頭で大規模災害を想定した総合防災訓練が行われ、あいち防災リーダー会会員18名が参加しました。研修部が準備万端のお陰で、楽しく和気藹々のうちに活動できました。ペットボトルを利用した液状化現象の説明・ロープワーク・ぶるるくんの展示説明・非常持ち出し品・備蓄品の実物展示・防災頭巾の試着・起震車体験者の介添え・チラシの配布・・・etc・・・すべてのコーナーが大好評で大入り満員の状態でした。参加された皆さんおつかれさまでした。

・・・知多ブロック便り・・・

・・・災害に強い町をめざして・・・ 新潟水害支援を通して考える



東浦防災ボランティアの会

磯村美智子

東浦町は人口4万7千人、知多半島の北に位置する小さな町である。自動車会社の下請けの工場が多くあり、また、巨峰ぶどうその他の農業の町でもある。しかし、昔からあった多くの個人商店は、大型店舗の出現で8割ほどが赤字だそうである。このままでも心配なのに、もし巨大災害が起きたらどうなるのか？しばらく前から私はこの事を考え続けていた。「災害に強い町」とはどういう事を言うのだろうか。こういう時に、いい講演を聴く機会に恵まれた。「渋谷和久氏」。現国土交通省、元総務省防災局のお役人で「防災白書」を作ったご本人である。お役人とは思えないほど気さくな方で、住民と酒を酌み交わしながら論議したりする方で、講演後も名刺交換をし、向かい合って食事をさせて頂いた。この方と早稲田商店街が災害に強い町づくりに取り組んでおられるというので、少しではあったがお話を聞かせていただいた。

そのすぐあとの7月13日に「福井・新潟水害」が起きたのである。そこで、見通しもたたないまま次のキーワードのみで支援を行う事にした。

- ① 被災者のための物資支援。
- ② 被災地と連絡し合い、その時々に必要な物を確認して送る。
- ③ 一口千円～3口3千円を出してもらい、募金額で購入できる物資支援を行う。
- ④ こちらと向こうの町の個人商店の支援。とくに被災地の商店復興を行いたい。

福井県はこちらから近いため、支援が多く入ったが、新潟県については情報が入らないため、あえて新潟県に絞り、被害の多かった三条市、見附、中之島にそれぞれ支援をしたい旨の電話をした。結局三条市のみ私たちの意向を汲んだ対応をしてくれて、市役所のAさんが最後まで誠実な対応をしてくれる事になった。この方がいなければこういう手間のかかる支援はできなかったと思う。こうして7月26日から支援活動が動き出した。第一便は厚手ゴミ袋千枚を発送。第二便は食器用洗剤120本、住宅用洗剤11本、ティシュペーパー600個を送った。実はこういう物をこちらの個人商店から送りたかったが体制が整っておらず、品数を揃えることができなかった。結局大型店舗から送る羽目になってしまったのである。これには輸送費もかかり反省すべき点である。これを踏まえて現地の様子を聞き、商店が再開しそうだということで、無理を言って四日町商店街の理事長さんに窓口になってもらい、現地調達をする事にした。住宅用洗剤80本、ゴム手袋120双を注文。第三便は350戸の仮設住宅用のトイレトペーパー1、728個注文。残金に足して3,000円を日赤に寄付し支援完了。支援者81名 義援金182,572円。

- 問題点
- ① 支援する側の商店も日ごろから話し合っただけでルールを決め、窓口を作っておかないと品数、値段、まとめと発送など課題が残る。
 - ② 支援を受ける側についても同様に商店同士の連携と、どの店からいくつ買うかなどこちら側にもルールが要る。物資支援ならこの町で買って！とインターネットで発信できるくらいにしたい。
 - ③ 大事なものは被災者の必要な物を時間を追って見極めることである。

名古屋ブロックだより……



名古屋市港区防災訓練に参加

いつ 9月5日(日)AM8:00~ どこで 小碓小学校

朝8:00、生徒が集団登校。続いて、「東海地震に関する警戒宣言」に基づき、広報車のアナウンスに従い、父兄・町内自主防災会登校開始。人員点呼の後、各防災訓練に参加。

各教室では、救急救命法講習・三角巾による止血法訓練・煙道体験・道路障害物に関する展示・クイズ

体育館では、ジャンボ防災カルタ取り

講堂では、ボランティアセンター・DIG(図上訓練)・地域防災マップの発表

校庭では、消火器による消火訓練・簡易トイレの組み立て体験・消火栓から

応急給水栓実技・避難所体験……など

家族も一緒に、楽しく参加できる防災訓練でした。いざ地震！という時のために家族がどう行動するかを話し合う「家族会議」へつながることでしょう。



簡易トイレ組み立て体験中 ⇒

尾張ブロックだより……

免震・耐震の公共施設見学会

尾張ブロック 河津 英美

いつ 7月25日(日) 13:00より どこで 豊明市本庁舎 東館

尾張ブロック会員20名は、豊明市が災害発生時、災害対策本部となる、市庁舎・東館の免震装置などの見学会を行いました。説明役は、あいち防災リーダー会会員であり、防災安全課課長の佐藤氏にお願いしました。防災安全課は1階にあります。災害発生時災害対策本部となり、情報の集約をする情報室は、平時会議室に利用されて、災害発生時は、すぐ対応できるようになっています。すでに、災害対策室・情報室としての運営を行ったそうです。

施設の特徴

- 1、免震装置 増築された東館の基礎には、地震の衝撃を和らげる免震装置が設計されています。この装置は、①鋼板の間に円形ゴムを積層したゴムアイソレータ ②鋼棒を円状に4つ付けた鋼棒ダンパー ③鉛棒をS字状に曲げた鉛ダンパーの3つの装置から構成されています。
- 2、太陽光発電 東館に10kw.本館に20kw.計30kw.の太陽光発電パネルを設置し、近年求められている環境に優しい施設にしました。
- 3、雨水利用 雨水を地下タンクに貯め浄化して東館のトイレ用水として利用しています。

耐震・免震装置の見学のため建物地下へ

積層ゴムアイソレータは 700径が8基 750径が7基 計15基でゆれを吸収する。
鉛ダンパー3基 鋼棒ダンパー4基で建物を元に戻す働きをする。

*消防署2階にある、情報センターは、設計の段階で建物の一部に免震装置が組み込まれているそうです。一言に「免震・耐震装置」と言ってもいろいろな方法があり、一般住宅の免震・耐震装置との違いを比較することが出来参考になりました。今後の「防災啓発活動」に生かしたいと思います。

〔西尾・幡豆地区〕

西尾幡豆地区広域連合主催「防災フェア」に参加

……9月25日（土）午後3時よりサバイバルキャンプ実施。一般募集の児童・生徒・保護者の合計43名が参加。テント設営からスタートし、全員で夕食のカレーライス作り。夕食後会場周辺の防災地図作りを兼ねて、決められたコースの散歩。8時30分頃から全員で花火を楽しみ、9時過ぎには、それぞれのテントで就寝。9時ごろから雨が降り始め、夜半2時半には、強い雨になり、テントからふれあいホールに移動し、再就寝。26日朝は、雨も上がり、缶ごう炊飯で朝食を作り、サバイバルキャンプを終了した。突然の雨で、予定のロープワークは中止になったが、参加者の感想は好評で来年もぜひとの希望も。

・・・西尾・幡豆防災リーダー会設立 に向けて行動を開始しました・・・

*設立総会 平成17年1月予定

*発起人 板頭 貴彦 天野 竹行 牧野 明広 保科 巍 小澤 久宣
久保田 芳道 稲垣 繁輝 田口 正義 下村 孝利 手嶋 和樹

*顧問 山田 秀通（前愛知県防災局長）



西尾・幡豆地区次回活動予定

いつ 10月21日（木）どこで 吉良町 吉良漁業集荷場
なにを NPO 提案型協働モデル事業講演とワークショップに参加
講師は 福和 伸夫先生

MEMO

みなさん おでかけ下さい

なごや市民消防・防災フェア

いつ 11月3日（文化の日）午前10時～午後4時

どこで 久屋大通公園（久屋ひろば）

あいち防災リーダー会名古屋ブロックも展示参加しま
す



福井水害救援活動

海部ブロック長 高木浩則

福井県鯖江市の水害救援活動をして色々なことを学びました。まず感じたことは防災リーダーの一人としてテレビや新聞で見る被害状況は「絵」であって、たいしたことも出来ないが生の現場に立つことで被災現場の「匂い」を嗅いで肌を感じることの大切さ。次に災害は地震だけではないことで、海部郡のゼロメートル地帯に住む者にとっては他人事では決してないということ。最後に短い時間ではあったが被災された方から心からの感謝の言葉を頂けたことと、被災者は明日もあさってにも復旧作業が続くのに救援者として帰路についてしまったことに自己欺瞞に陥りました。



市社協職員より活動オリエンテーション



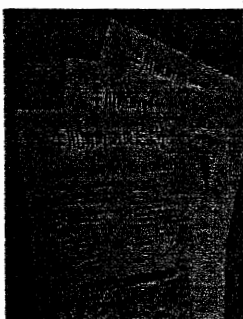
個人住宅へ救援活動

東三河ブロックだより.....

豊橋市牛川南町内会

防災だより 第1・2・3号を発行

豊橋市のAPLA会員 遠山氏は、地元牛川南町内会で「防災だより」第1・2・3号を発行し、各戸配布しました。防災リーダーとして、地域住民への啓発活動は、地域の特性や、町内会の様々な特性の中で、提案をどのように受け入れてもらうか。が課題ではないでしょうか。その点、遠山氏は、元町内会長の経験を生かして、スムーズに活動を進めています。自分のできる事をPRしながら、次のことを注意しながら.....



- ・ 地域へリーダーの役割や責任を説明し売り込む。
- ・ やさしい防災から取り組む
- ・ 繰り返し説明する。
- ・ まずは、ご近所から・・・
- ・ 遠慮はしない、でも相手のペースで・・・

東三河、新城・設楽ブロック研修会の予定

予定日 10月27日(水) バスで参加目標25名
 場所 静岡市防災センター
 内容 リーダー活動報告・ブロック会の持ち方討論
 静岡市防災センター見学
 静岡市防災課 講演会「自主防災リーダーの活動と課題」20年の経験を語る

西三河ブロックの皆さんへ

*****このページは、各ブロックのみなさんへ連絡用のページとして使用しています*****



みなさん お元気ですか？

各地区での「防災訓練」への参加ご協力おつかれさまでした。

9月1日防災の日前後は、いろいろな形での防災イベントがあちらこちらで開かれ、あいち防災リーダー会のみなさんも大変なご活躍だったことと思います。

さて、予ねて「APLA通信」発送の件について、少しでも経費を節約するために、「パソコンでメールアドレスをお持ちの方へは、メールで送信させて下さい」というお願いをしましたが、お差し支えない方は、ご協力くださるよう重ねてお願いします。2号を発送するとき「お願い文」を同封させていただきましたがご協力くださる方で、まだアドレスをお届け下さってない方は、右記までご連絡ください。なおご連絡下さる際は、「APLA通信送信の件」と表記願います。

間瀬トシ子のアドレスです
t-mase@triton.ocn.ne.jp

.....

西三河リーダー集合！！

イノシシ鍋もあるよ！

10月30日（土） 詳しい時間は後日連絡します。

菅生側右岸 「消防ひろば」にて..... 防災テントを出します。

内容は..... 地震3兄弟パネル展示・防災クイズ・ロープワーク・
防災パネル・非常食・固定家具..... etc.....

子どもから大人まで分かりやすく！

楽しみながら！防災意識が身に付くコーナーです。

「自分の命は自分で守る」

〈 編集後記 〉

各ブロックのみなさんから日頃活動されている内容の原稿をお寄せ頂き、熱意に圧倒されながら編集をさせていただきました。原稿をお寄せ下さったみなさんありがとうございました。3号の編集は、西三河ブロック広報部の間瀬が担当しました。不手際な部分も多々あると思いますがご容赦下さいますようお願いいたします。次回4号の担当は、名古屋ブロック広報部伊藤さんです。よろしくお願います。

